

医薬品インタビューフォーム

日本病院薬剤師会のIF記載要領2013に準拠して作成

緩下剤

センノシド錠12mg「ホリイ」 SENNOSIDE Tab.12mg “HORII”

<センノシド製剤>

| | |
|---------------------------|--|
| 剤形 | 糖衣錠 |
| 製剤の規制区分 | 該当しない |
| 規格・含量 | 1錠中 センノシドA・Bカルシウム塩として 12mg |
| 一般名 | 和名：センノシドA・Bカルシウム塩 洋名：Sennoside A・B calcium |
| 製造販売承認年月日 薬価基準収載・発売年月日 | 製造販売承認年月日：2017年 8月15日 薬価基準収載年月日：2017年 12月 8日 発売年月日：2018年 1月22日 |
| 開発・製造販売（輸入）・ 提携・販売会社名 | 製造販売元：堀井薬品工業株式会社 |
| 医薬情報担当者の連絡先 | |
| 問い合わせ窓口 | 堀井薬品工業株式会社 安全性情報部 TEL 06-6942-3487 FAX 06-6942-1505 医療関係者向けホームページ http://www.horii-pharm.co.jp/medicalstaff_gate.html |

本IFは2018年1月作成の添付文書の記載に基づき作成した。

最新の添付文書情報は、医薬品医療機器情報提供ホームページ

<http://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/0001.html>にてご確認ください。

IF利用の手引きの概要

—日本病院薬剤師会—

1. 医薬品インタビューフォーム作成の経緯

医療用医薬品の基本的な要約情報として医療用医薬品添付文書（以下、添付文書と略す）がある。医療現場で医師・薬剤師等の医療従事者が日常業務に必要な医薬品の適正使用情報を活用する際には、添付文書に記載された情報を裏付ける更に詳細な情報が必要な場合がある。

医療現場では、当該医薬品について製薬企業の医薬情報担当者等（以下、MRと略す）に情報の追加請求や質疑をして情報を補完して対処してきている。この際に必要な情報を網羅的に入手するための情報リストとしてインタビューフォームが誕生した。

昭和63年に日本病院薬剤師会（以下、日病薬と略す）学術第2小委員会が「医薬品インタビューフォーム」（以下、IFと略す）の位置付け並びにIF記載様式を策定した。その後、医療従事者向け並びに患者向け医薬品情報ニーズの変化を受けて、平成10年9月に日病薬学術第3小委員会においてIF記載要領の改訂が行われた。

更に10年が経過し、医薬品情報の創り手である製薬企業、使い手である医療現場の薬剤師、双方にとって薬事・医療環境は大きく変化したことを受けて、平成20年9月に日病薬医薬情報委員会においてIF記載要領2008が策定された。

IF記載要領2008では、IFを紙媒体の冊子として提供する方式から、PDF等の電磁的データとして提供すること（e-IF）が原則となった。この変更にあわせて、添付文書において「効能・効果の追加」、「警告・禁忌・重要な基本的注意の改訂」などの改訂があった場合に、改訂の根拠データを追加した最新版のe-IFが提供されることとなった。

最新版のe-IFは、（独）医薬品医療機器総合機構の医薬品情報提供ホームページ（<http://www.info.pmda.go.jp/>）から一括して入手可能となっている。日本病院薬剤師会では、e-IFを掲載する医薬品情報提供ホームページが公的サイトであることに配慮して、薬価基準収載にあわせてe-IFの情報を検討する組織を設置して、個々のIFが添付文書を補完する適正使用情報として適切か審査・検討することとした。

2008年より年4回のインタビューフォーム検討会を開催した中で指摘してきた事項を再評価し、製薬企業にとっても、医師・薬剤師等にとっても、効率の良い情報源とすることを考えた。そこで今般、IF記載要領の一部改訂を行いIF記載要領2013として公表する運びとなった。

2. IFとは

IFは「添付文書等の情報を補完し、薬剤師等の医療従事者にとって日常業務に必要な、医薬品の品質管理のための情報、処方設計のための情報、調剤のための情報、医薬品の適正使用のための情報、薬学的な患者ケアのための情報等が集約された総合的な個別の医薬品解説書として、日病薬が記載要領を策定し、薬剤師等のために当該医薬品の製薬企業に作成及び提供を依頼している学術資料」と位置付けられる。

ただし、薬事法・製薬企業機密等に関わるもの、製薬企業の製剤努力を無効にするもの及び薬剤師自らが評価・判断・提供すべき事項等はIFの記載事項とはならない。言い換えると、製薬企業から提供されたIFは、薬剤師自らが評価・判断・臨床適応するとともに、必要な補完をするものという認識を持つことを前提としている。

【IFの様式】

- ①規格はA4版、横書きとし、原則として9ポイント以上の字体（図表は除く）で記載し、一色刷りとする。ただし、添付文書で赤枠・赤字を用いた場合には、電子媒体ではこれに従うものとする。
- ②IF記載要領に基づき作成し、各項目名はゴシック体で記載する。

③表紙の記載は統一し、表紙に続けて日病薬作成の「IF利用の手引きの概要」の全文を記載するものとし、2頁にまとめる。

[IFの作成]

- ①IFは原則として製剤の投与経路別（内用剤、注射剤、外用剤）に作成される。
- ②IFに記載する項目及び配列は日病薬が策定したIF記載要領に準拠する。
- ③添付文書の内容を補完するとのIFの主旨に沿って必要な情報が記載される。
- ④製薬企業の機密等に関するもの、製薬企業の製剤努力を無効にするもの及び薬剤師をはじめ医療従事者自らが評価・判断・提供すべき事項については記載されない。
- ⑤「医薬品インタビューフォーム記載要領2013」（以下、「IF記載要領2013」と略す）により作成されたIFは、電子媒体での提供を基本とし、必要に応じて薬剤師が電子媒体（PDF）から印刷して使用する。企業での製本は必須ではない。

[IFの発行]

- ①「IF記載要領2013」は、平成25年10月以降に承認された新医薬品から適用となる。
- ②上記以外の医薬品については、「IF記載要領2013」による作成・提供は強制されるものではない。
- ③使用上の注意の改訂、再審査結果又は再評価結果（臨床再評価）が公表された時点並びに適応症の拡大等がなされ、記載すべき内容が大きく変わった場合にはIFが改訂される。

3. IFの利用にあたって

「IF記載要領2013」においては、PDFファイルによる電子媒体での提供を基本としている。情報を利用する薬剤師は、電子媒体から印刷して利用することが原則である。

電子媒体のIFについては、医薬品医療機器総合機構の医薬品医療機器情報提供ホームページに掲載場所が設定されている。

製薬企業は「医薬品インタビューフォーム作成の手引き」に従って作成・提供するが、IFの原点を踏まえ、医療現場に不足している情報やIF作成時に記載し難い情報等については製薬企業のMR等へのインタビューにより薬剤師等自らが内容を充実させ、IFの利用性を高める必要がある。また、随時改訂される使用上の注意等に関する事項に関しては、IFが改訂されるまでの間は、当該医薬品の製薬企業が提供する添付文書やお知らせ文書等、あるいは医薬品医療機器情報配信サービス等により薬剤師等自らが整備するとともに、IFの使用にあたっては、最新の添付文書を医薬品医療機器情報提供ホームページで確認する。

なお、適正使用や安全性の確保の点から記載されている「臨床成績」や「主な外国での発売状況」に関する項目等は承認事項に関わることもあり、その取扱いには十分留意すべきである。

4. 利用に際しての留意点

IFを薬剤師等の日常業務において欠かすことができない医薬品情報源として活用して頂きたい。しかし、薬事法や医療用医薬品プロモーションコード等による規制により、製薬企業が医薬品情報として提供できる範囲には自ずと限界がある。IFは日病薬の記載要領を受けて、当該医薬品の製薬企業が作成・提供するものであることから、記載・表現には制約を受けざるを得ないことを認識しておかなければならない。

また製薬企業は、IFがあくまでも添付文書を補完する情報資材であり、インターネットでの公開等も踏まえ、薬事法上の広告規制に抵触しないよう留意し作成されていることを理解して情報を活用する必要がある。

(2013年4月改訂)

目 次

I. 概要に関する項目

1. 開発の経緯・・・・・・・・・・・・・ 1
2. 製品の治療学的・製剤学的特性・・・・ 1

II. 名称に関する項目

1. 販売名・・・・・・・・・・・・・ 2
 - (1) 和 名・・・・・・・・・・・・・ 2
 - (2) 洋 名・・・・・・・・・・・・・ 2
 - (3) 名称の由来・・・・・・・・・・・・・ 2
2. 一般名・・・・・・・・・・・・・ 2
 - (1) 和 名 (命名法)・・・・・・・・・・・・・ 2
 - (2) 洋 名 (命名法)・・・・・・・・・・・・・ 2
 - (3) ステム・・・・・・・・・・・・・ 2
3. 構造式又は示性式・・・・・・・・・・・・・ 2
4. 分子式及び分子量・・・・・・・・・・・・・ 2
5. 化学名 (命名法)・・・・・・・・・・・・・ 2
6. 慣用名、別名、略号、記号番号・・・・ 2
7. CAS登録番号・・・・・・・・・・・・・ 2

III. 有効成分に関する項目

1. 物理化学的性質・・・・・・・・・・・・・ 3
 - (1) 外観・性状・・・・・・・・・・・・・ 3
 - (2) 溶解性・・・・・・・・・・・・・ 3
 - (3) 吸湿性・・・・・・・・・・・・・ 3
 - (4) 融点 (分解点)、沸点、凝固点・・・・ 3
 - (5) 酸塩基解離定数・・・・・・・・・・・・・ 3
 - (6) 分配係数・・・・・・・・・・・・・ 3
 - (7) その他の主な示性値・・・・・・・・・・・・・ 3
2. 有効成分の各種条件下における安定性
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
3. 有効成分の確認試験法・・・・・・・・・・・・・ 3
4. 有効成分の定量法・・・・・・・・・・・・・ 3

IV. 製剤に関する項目

1. 剤 形・・・・・・・・・・・・・ 4
 - (1) 剤形の区別、規格及び性状・・・・ 4
 - (2) 製剤の物性・・・・・・・・・・・・・ 4
 - (3) 識別コード・・・・・・・・・・・・・ 4
 - (4) pH、浸透圧比、粘度、比重、無菌
の旨及び安定なpH域等・・・・・・・・ 4

2. 製剤の組成・・・・・・・・・・・・・ 4
 - (1) 有効成分 (活性成分) の含量・・・・ 4
 - (2) 添加物・・・・・・・・・・・・・ 4
 - (3) その他・・・・・・・・・・・・・ 4
3. 懸濁剤、乳剤の分散性に対する注意・・・・ 4
4. 製剤の各種条件下における安定性・・・・ 5
5. 調製法及び溶解後の安定性・・・・・・・・ 5
6. 他剤との配合変化 (物理化学的変化)
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
7. 溶出性・・・・・・・・・・・・・ 5
8. 生物学的試験法・・・・・・・・・・・・・ 5
9. 製剤中の有効成分の確認試験法・・・・ 5
10. 製剤中の有効成分の定量法・・・・・・・・ 6
11. 力価・・・・・・・・・・・・・ 6
12. 混入する可能性のある夾雑物・・・・ 6
13. 注意が必要な容器・外観が特殊な
容器に関する情報・・・・・・・・・・・・・ 6
14. その他・・・・・・・・・・・・・ 6

V. 治療に関する項目

1. 効能又は効果・・・・・・・・・・・・・ 7
2. 用法及び用量・・・・・・・・・・・・・ 7
3. 臨床成績・・・・・・・・・・・・・ 7
 - (1) 臨床データパッケージ・・・・・・・・ 7
 - (2) 臨床効果・・・・・・・・・・・・・ 7
 - (3) 臨床薬理試験・・・・・・・・・・・・・ 7
 - (4) 探索的試験・・・・・・・・・・・・・ 7
 - (5) 検証的試験・・・・・・・・・・・・・ 7
 - 1) 無作為化並行用量反応試験・・・・ 7
 - 2) 比較試験・・・・・・・・・・・・・ 7
 - 3) 安全性試験・・・・・・・・・・・・・ 7
 - 4) 患者・病態別試験・・・・・・・・・・ 7
 - (6) 治療的使用・・・・・・・・・・・・・ 7
 - 1) 使用成績調査・特定使用成績調査
(特別調査)・製造販売後臨床試験
(市販後臨床試験)・・・・・・・・・・ 7
 - 2) 承認条件として実施予定の内容
又は実施した試験の概要・・・・・・・・ 7

VI. 薬効薬理に関する項目

1. 薬理的に関連ある化合物
又は化合物群・・・・・・・・・・8
2. 薬理作用・・・・・・・・・・8
 - (1) 作用部位・作用機序・・・・・・・・8
 - (2) 薬効を裏付ける試験成績・・・・・・・・8
 - (3) 作用発現時間・持続時間・・・・・・・・8

VII. 薬物動態に関する項目

1. 血中濃度の推移・測定法・・・・・・・・9
 - (1) 治療上有効な血中濃度・・・・・・・・9
 - (2) 最高血中濃度到達時間・・・・・・・・9
 - (3) 臨床試験で確認された血中濃度・・9
 - (4) 中毒域・・・・・・・・・・9
 - (5) 食事・併用薬の影響・・・・・・・・9
 - (6) 母集団（ポピュレーション）解析により
判明した薬物体内動態変動要因・9
2. 薬物速度論的パラメータ・・・・・・・・9
 - (1) 解析方法・・・・・・・・・・9
 - (2) 吸収速度定数・・・・・・・・・・9
 - (3) バイオアベイラビリティ・・・・・・・・9
 - (4) 消失速度定数・・・・・・・・・・9
 - (5) クリアランス・・・・・・・・・・9
 - (6) 分布容積・・・・・・・・・・9
 - (7) 血漿蛋白結合率・・・・・・・・・・9
3. 吸 収・・・・・・・・・・9
4. 分 布・・・・・・・・・・9
 - (1) 血液-脳関門通過性・・・・・・・・9
 - (2) 血液-胎盤関門通過性・・・・・・・・9
 - (3) 乳汁への移行性・・・・・・・・・・9
 - (4) 髄液への移行性・・・・・・・・・・9
 - (5) その他の組織への移行性・・・・10
5. 代 謝・・・・・・・・・・10
 - (1) 代謝部位及び代謝経路・・・・・・・・10
 - (2) 代謝に関与する酵素（CYP450等）の
分子種・・・・・・・・・・10
 - (3) 初回通過効果の有無及びその割合・10
 - (4) 代謝物の活性の有無及び比率・・10
 - (5) 活性代謝物の速度論的パラメータ・10
6. 排 泄・・・・・・・・・・10
 - (1) 排泄部位及び経路・・・・・・・・10
 - (2) 排泄率・・・・・・・・・・10
 - (3) 排泄速度・・・・・・・・・・10

7. トランスポーターに関する情報・・・・10
8. 透析等による除去率・・・・・・・・・・10

VIII. 安全性（使用上の注意等）に関する項目

1. 警告内容とその理由・・・・・・・・11
2. 禁忌内容とその理由（原則禁忌を含む）
・・・・・・・・・・11
3. 効能又は効果に関連する使用上の注意と
その理由・・・・・・・・・・11
4. 用法及び用量に関連する使用上の注意と
その理由・・・・・・・・・・11
5. 慎重投与内容とその理由・・・・・・・・11
6. 重要な基本的注意とその理由及び
処置方法・・・・・・・・・・11
7. 相互作用・・・・・・・・・・11
 - (1) 併用禁忌とその理由・・・・・・・・11
 - (2) 併用注意とその理由・・・・・・・・11
8. 副作用・・・・・・・・・・12
 - (1) 副作用の概要・・・・・・・・・・12
 - (2) 重大な副作用と初期症状・・・・・・・・12
 - (3) その他の副作用・・・・・・・・・・12
 - (4) 項目別副作用発現頻度及び
臨床検査値異常一覧・・・・・・・・12
 - (5) 基礎疾患、合併症、重症度及び手術の
有無等背景別の副作用発現頻度・・12
 - (6) 薬物アレルギーに対する注意及び
試験法・・・・・・・・・・12
9. 高齢者への投与・・・・・・・・・・12
10. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与・・・・13
11. 小児等への投与・・・・・・・・・・13
12. 臨床検査結果に及ぼす影響・・・・・・・・13
13. 過量投与・・・・・・・・・・13
14. 適用上の注意・・・・・・・・・・13
15. その他の注意・・・・・・・・・・13
16. その他・・・・・・・・・・13

IX. 非臨床試験に関する項目

1. 薬理試験・・・・・・・・・・14
 - (1) 薬効薬理試験・・・・・・・・・・14
 - (2) 副次的薬理試験・・・・・・・・・・14
 - (3) 安全性薬理試験・・・・・・・・・・14
 - (4) その他の薬理試験・・・・・・・・・・14

| | |
|--------------|----|
| 2. 毒性試験 | 14 |
| (1) 単回投与毒性試験 | 14 |
| (2) 反復投与毒性試験 | 14 |
| (3) 生殖発生毒性試験 | 14 |
| (4) その他の特殊毒性 | 14 |

X. 管理的事項に関する項目

| | |
|--|----|
| 1. 規制区分 | 15 |
| 2. 有効期間又は使用期限 | 15 |
| 3. 貯法・保存条件 | 15 |
| 4. 薬剤取扱い上の注意点 | 15 |
| (1) 薬局での取り扱い上の 留意点について | 15 |
| (2) 薬剤交付時の取り扱いについて (患者等に留意すべき必須事項等) | 15 |
| (3) 調剤時の留意点について | 15 |
| 5. 承認条件等 | 15 |
| 6. 包装 | 15 |
| 7. 容器の材質 | 15 |
| 8. 同一成分・同効薬 | 15 |
| 9. 国際誕生年月日 | 15 |
| 10. 製造販売承認年月日及び承認番号 | 15 |
| 11. 薬価基準収載年月日 | 16 |
| 12. 効能又は効果追加、用法及び用量変更 追加等の年月日及びその内容 | 16 |
| 13. 再審査結果、再評価結果公表年月日 及びその内容 | 16 |
| 14. 再審査期間 | 16 |
| 15. 投薬期間制限医薬品に関する情報 | 16 |
| 16. 各種コード | 16 |
| 17. 保険給付上の注意 | 16 |

XI. 文献

| | |
|-------------|----|
| 1. 引用文献 | 17 |
| 2. その他の参考文献 | 17 |

XII. 参考資料

| | |
|-----------------|----|
| 1. 主な外国での発売状況 | 17 |
| 2. 海外における臨床支援情報 | 17 |

XIII. 備考

| | |
|----------|----|
| その他の関連資料 | 17 |
|----------|----|

I. 概要に関する項目

1. 開発の経緯

センノシドA・Bは生薬「センナ」に含まれる成分である。

センナは古くアラビアの医師によって使用された生薬で、欧米諸国では繁用されている緩下薬である。日局では第一版より収載されている。

本剤は、センノシドA・Bのカルシウム塩を主成分とする製剤であり、堀井薬品工業株式会社が後発医薬品として2017年8月に小分け製造の承認を取得し、2018年1月に販売を開始した。

2. 製品の治療学的・製剤学的特性

(1)作用部位の大腸において、腸内細菌の作用によりレインアンスロンを生成し、大腸の蠕動運動を亢進させて緩下作用をあらわす。

(2)副作用として、腹痛、下痢、悪心・嘔吐、腹鳴などが報告されている（頻度不明）。

II. 名称に関する項目

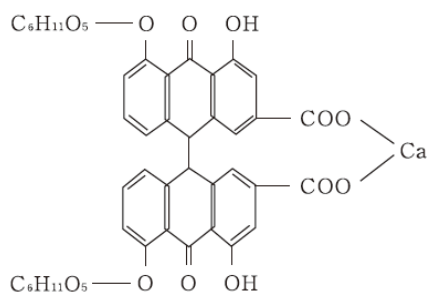
1. 販売名

- (1) 和名 センノシド錠12mg「ホリイ」
(2) 洋名 Sennoside Tab. 12mg “HORII”
(3) 名称の由来 一般的名称+剤型+含量+会社名
(平成17年9月22日付薬食審査発第0922001号に基づき命名)

2. 一般名

- (1) 和名(命名法) センノシドA・Bカルシウム塩
(2) 洋名(命名法) Sennoside A・B calcium
(3) ステム 不明

3. 構造式又は示性式



4. 分子式及び分子量

分子式： $C_{42}H_{36}O_{20}Ca$
分子量：900.80

5. 化学名(命名法)

Dihydro-dirheinanthrone glucoside calcium salt

6. 慣用名、別名、略号、記号番号

特になし

7. CAS登録番号

Sennoside A : 81-27-6
Sennoside B : 128-57-4
Sennoside Aカルシウム塩 : 52730-36-6
Sennoside Bカルシウム塩 : 52730-37-7

Ⅲ. 有効成分に関する項目

1. 物理化学的性質

(1) 外観・性状

センノシドAとBは互いに立体異性体で、そのカルシウム塩は褐色～黒褐色の粉末で、わずかに特異なおいがあり、味はわずかに苦い。

(2) 溶解性

センノシドA及びBカルシウム塩

水に溶けやすく、エタノール（95）及びジエチルエーテルにはほとんど溶けない。

(3) 吸湿性

該当資料なし

(4) 融点（分解点）、沸点、凝固点

該当資料なし

(5) 酸塩基解離定数

該当資料なし

(6) 分配係数

該当資料なし

(7) その他の主な示性値

該当資料なし

2. 有効成分の各種条件下における安定性

該当資料なし

3. 有効成分の確認試験法

①ジエチルエーテル抽出液とその水層でのアルカリ性呈色によるアントラキノン類の確認
(センノシド)

②日局「定性反応 カルシウム塩」


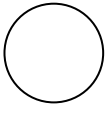

4. 有効成分の定量法

日局「紫外可視吸光度測定法」

IV. 製剤に関する項目

1. 剤形

(1) 剤形の区別、規格及び性状

| 販売名 | 剤形・性状 | 外形 | | |
|---------------------|--------------|---|--|---|
| | | 表 | 裏 | 側面 |
| センノシド錠 12mg「ホリイ」 | 暗赤褐色の 糖衣錠 |  |  |  |
| | | 直径：7.6mm 厚さ：4.5mm 重量：200mg | | |

(2) 製剤の物性

該当資料なし

(3) 識別コード

HR209

(4) pH、浸透圧比、粘度、比重、無菌の旨及び安定なpH域等

該当資料なし

2. 製剤の組成

(1) 有効成分（活性成分）の含量

1錠中にセンノシドA・Bをそのカルシウム塩として12mg含有する。

(2) 添加物

乳糖水和物、トウモロコシデンプン、ヒドロキシプロピルセルロース、クロスボビドン、ステアリン酸マグネシウム、ヒプロメロース、白糖、沈降炭酸カルシウム、アラビアゴム末、ゼラチン、タルク、酸化チタン、マクロゴール6000、カルメロースナトリウム、カルナウバロウ、赤色2号、黄色5号を含有する。

(3) その他

特になし

3. 懸濁剤、乳剤の分散性に対する注意

該当しない

4. 製剤の各種条件下における安定性

室温保存にて3年間は経時的に安定

保存形態：PTP包装＋ピロー包装＋紙箱

| 保存条件 | 保存期間 | 結 果 |
|-----------|------|--------------------|
| 室温保存 | 36ヵ月 | 全ての規格が承認規格範囲内であった。 |
| 40℃、75%RH | 6ヵ月 | 全ての規格が承認規格範囲内であった。 |

無包装状態の安定性

| 保 存 条 件 | 保 存 形 態 | 測 定 項 目 |
|-----------------------|---------|---|
| 温度 (40℃、6ヵ月) | 遮光・気密容器 | 外 観：変化なし 含 量：変化なし 硬 度：変化なし 崩壊性：変化なし |
| 湿度 (30℃、75%RH、6ヵ月) | 遮光・開放 | 外 観：1ヵ月後退色、錠剤表面のヒビ割れ (規格外) 含 量：変化なし 硬 度：変化なし 崩壊性：変化なし |
| 光 (120万Lux・hr) | 曝光・気密容器 | 外 観：変化なし 含 量：変化なし 硬 度：変化なし 崩壊性：変化なし |

5. 調製法及び溶解後の安定性

該当しない

6. 他剤との配合変化（物理化学的变化）

該当資料なし

7. 溶出性

該当資料なし

8. 生物学的試験法

該当しない

9. 製剤中の有効成分の確認試験法

- ①ジエチルエーテル抽出液とその水層でのアルカリ呈色によるアントラキノン類の確認
(センノシド)
- ②日局「定性反応 カルシウム塩」

10. **製剤中の有効成分の定量法** _____
日局「紫外可視吸光度測定法」
11. **力価** _____
該当しない
12. **混入する可能性のある夾雑物** _____
該当資料なし
13. **注意が必要な容器・外観が特殊な容器に関する情報** _____
該当しない
14. **その他** _____
特になし

V. 治療に関する項目

1. 効能又は効果

便秘症

2. 用法及び用量

センノシドA・B（又はそのカルシウム塩）として、通常成人1日1回12～24mg（本剤1～2錠）を就寝前に経口投与する。

高度の便秘には、1回48mg（本剤4錠）まで増量することができる。

なお、年齢、症状により適宜増減する。

3. 臨床成績

(1) 臨床データパッケージ

該当しない

(2) 臨床効果

該当資料なし

(3) 臨床薬理試験

該当資料なし

(4) 探索的試験

該当資料なし

(5) 検証的試験

1) 無作為化並行用量反応試験

該当資料なし

2) 比較試験

該当資料なし

3) 安全性試験

該当資料なし

4) 患者・病態別試験

該当資料なし

(6) 治療的使用

1) 使用成績調査・特定使用成績調査（特別調査）・製造販売後臨床試験（市販後臨床試験）

該当しない

2) 承認条件として実施予定の内容又は実施した試験の概要

該当しない

VI. 薬効薬理に関する項目

1. 薬理的に関連ある化合物又は化合物群

センナ、ダイオウ等のアントラキノン系化合物、ピコスルファートナトリウム水和物等

2. 薬理作用

(1) 作用部位・作用機序

作用部位：大腸

作用機序：センノシドA・Bは大腸内で腸内細菌の作用によりレインアンスロンを生成し、大腸の蠕動運動を亢進させて、緩下作用を発現する。^{1)~3)}

(2) 薬効を裏付ける試験成績

該当資料なし

(3) 作用発現時間・持続時間

服用後8~10時間で効力を発揮する。⁴⁾

VII. 薬物動態に関する項目

1. 血中濃度の推移・測定法

- (1) 治療上有効な血中濃度
該当資料なし
- (2) 最高血中濃度到達時間
該当資料なし
- (3) 臨床試験で確認された血中濃度
該当資料なし
- (4) 中毒域
該当資料なし
- (5) 食事・併用薬の影響
該当資料なし
- (6) 母集団（ポピュレーション）解析により判明した薬物体内動態変動要因
該当資料なし

2. 薬物速度論的パラメータ

- (1) 解析方法
該当資料なし
- (2) 吸収速度定数
該当資料なし
- (3) バイオアベイラビリティ
該当資料なし
- (4) 消失速度定数
該当資料なし
- (5) クリアランス
該当資料なし
- (6) 分布容積
該当資料なし
- (7) 血漿蛋白結合率
該当資料なし

3. 吸収

該当資料なし

4. 分布

- (1) 血液－脳関門通過性
該当資料なし
- (2) 血液－胎盤関門通過性
該当資料なし
- (3) 乳汁への移行性
VIII. 10. 「妊婦、産婦、授乳婦等への投与」の項を参照
- (4) 髄液への移行性
該当資料なし

(5) その他の組織への移行性

該当資料なし

5. 代謝 _____

(1) 代謝部位及び代謝経路

大腸において、腸内細菌の作用によりレインアンスロンを生成する。

(2) 代謝に関与する酵素（CYP450等）の分子種

該当資料なし

(3) 初回通過効果の有無及びその割合

該当資料なし

(4) 代謝物の活性の有無及び比率

該当資料なし

(5) 活性代謝物の速度論的パラメータ

該当資料なし

6. 排泄 _____

(1) 排泄部位及び経路

主として糞中に排泄されるが、尿中にも代謝物が認められる。

(2) 排泄率

該当資料なし

(3) 排泄速度

該当資料なし

7. トランスポーターに関する情報 _____

該当資料なし

8. 透析等による除去率 _____

該当資料なし

Ⅷ. 安全性（使用上の注意等）に関する項目

1. 警告内容とその理由

該当しない

2. 禁忌内容とその理由（原則禁忌を含む）

【禁忌（次の患者には投与しないこと）】

- (1) 本剤の成分又はセンノシド製剤に過敏症の既往歴のある患者
- (2) 急性腹症が疑われる患者、痙攣性便秘の患者〔蠕動運動亢進作用により腹痛等の症状を増悪するおそれがある。〕
- (3) 重症の硬結便のある患者〔下剤の経口投与では十分な効果が得られず、腹痛等の症状を増悪するおそれがある。〕
- (4) 電解質失調（特に低カリウム血症）のある患者には大量投与を避けること〔下痢が起ると電解質を喪失し、状態を悪化するおそれがある。〕

【原則禁忌（次の患者には投与しないことを原則とするが、特に必要とする場合には慎重に投与すること）】

妊婦又は妊娠している可能性のある婦人〔「10. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与」の項参照〕

3. 効能又は効果に関連する使用上の注意とその理由

該当しない

4. 用法及び用量に関連する使用上の注意とその理由

該当しない

5. 慎重投与内容とその理由

腹部手術後の患者〔腸管蠕動運動亢進作用により腹痛等がみられるので、消化管の手術後は特に注意すること。〕

6. 重要な基本的注意とその理由及び処置方法

連用による耐性の増大等のため効果が減弱し、薬剤に頼りがちになることがあるので、長期連用を避けること。

7. 相互作用

(1) 併用禁忌とその理由

該当しない

(2) 併用注意とその理由

該当しない

8. 副作用

(1) 副作用の概要

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

(2) 重大な副作用と初期症状

該当しない

(3) その他の副作用

| | 頻度不明 |
|----------------------|---|
| 過 敏 症 ^{注1)} | 発疹等 |
| 代 謝 ・ 栄 養 | 低カリウム血症、低ナトリウム血症、脱水 |
| 心 血 管 系 | 血圧低下 |
| 消 化 器 | 腹部不快感、大腸メラノーシス ^{注2)} 、腹痛、下痢、悪心・嘔吐、 腹鳴 |
| 肝 臓 | ALT (GPT) 上昇、AST (GOT) 上昇、 γ -GTP 上昇、血中ビリルビン上昇 |
| 腎臓・泌尿器 | 腎障害、着色尿 ^{注3)} |
| 全 身 症 状 | 疲労 |

注1) 投与を中止し、適切な処置を行うこと。
注2) 長期連用により発現することがある。
注3) 黄褐色又は赤色を呈することがある。

(4) 項目別副作用発現頻度及び臨床検査値異常一覧

該当資料なし

(5) 基礎疾患、合併症、重症度及び手術の有無等背景別の副作用発現頻度

該当資料なし

(6) 薬物アレルギーに対する注意及び試験法

【禁忌（次の患者には投与しないこと）】

(1) 本剤の成分又はセンノシド製剤に過敏症の既往歴のある患者

その他の副作用

| | 頻度不明 |
|----------------------|------|
| 過 敏 症 ^{注1)} | 発疹等 |

注1) 投与を中止し、適切な処置を行うこと。

9. 高齢者への投与

一般に高齢者では生理機能が低下しているので慎重に投与すること。

10. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与

(1)妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には、治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。〔妊娠中の投与に関する安全性は確立していない。〕なお、投与した場合、子宮収縮を誘発して、流産の危険性があるので、妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には大量に服用しないよう指導すること。

(2)授乳中の婦人には、授乳を避けさせることが望ましい。〔授乳中の婦人にセンノシド製剤を投与した場合、乳児に下痢がみられたとの報告がある。〕

11. 小児等への投与

低出生体重児、新生児、乳児に対する安全性は確立していない。〔使用経験がない。〕

12. 臨床検査結果に及ぼす影響

該当資料なし

13. 過量投与

該当資料なし

14. 適用上の注意

薬剤交付時：PTP包装の薬剤はPTPシートから取り出して服用するよう指導すること。（PTPシートの誤飲により、硬い鋭角部が食道粘膜へ刺入し、更には穿孔を起こして縦隔洞炎等の重篤な合併症を併発することが報告されている）

15. その他の注意

特になし

16. その他

特になし

IX. 非臨床試験に関する項目

1. 薬理試験

(1) 薬効薬理試験（「VI. 薬効薬理に関する項目」参照）

(2) 副次的薬理試験

該当資料なし

(3) 安全性薬理試験

該当資料なし

(4) その他の薬理試験

該当資料なし

2. 毒性試験

(1) 単回投与毒性試験

該当資料なし

(2) 反復投与毒性試験

該当資料なし

(3) 生殖発生毒性試験

該当資料なし

(4) その他の特殊毒性

該当資料なし

X. 管理的事項に関する項目

1. 規制区分

製 剤：該当しない

有効成分：該当しない

2. 有効期間又は使用期限

使用期限：3年（安定性試験結果に基づく）

3. 貯法・保存条件

室温保存

4. 薬剤取扱い上の注意点

(1) 薬局での取り扱い上の留意点について

該当資料なし

(2) 薬剤交付時の取り扱いについて（患者等に留意すべき必須事項等）

くすりのしおり：有り

VIII. 14. 「適用上の注意」の項を参照

(3) 調剤時の留意点について

特になし

5. 承認条件等

該当しない

6. 包 装

P T P：100錠（10錠×10）

1000錠（10錠×100）

バ ラ：1000錠

7. 容器の材質

・P T P包装：塩化ビニール、アルミニウム

・バ ラ 包装：ポリエチレン、紙箱

8. 同一成分・同効薬

同一成分薬： プルゼニド錠12mg

同 効 薬： センナ・センナ実製剤、ピコスルファートナトリウム水和物製剤等

9. 国際誕生年月日

不 明

10. 製造販売承認年月日及び承認番号

製造販売承認年月日：2017年8月15日

承 認 番 号：22900AMX00693000

11. 薬価基準収載年月日 _____

2017年12月8日

12. 効能又は効果追加、用法及び用量変更追加等の年月日及びその内容 _____

該当しない

13. 再審査結果、再評価結果公表年月日及びその内容 _____

再評価結果公表年月日：1981年8月7日

14. 再審査期間 _____

該当しない

15. 投薬期間制限医薬品に関する情報 _____

本剤は、投薬（あるいは投与）期間に関する制限は定められていない。

16. 各種コード _____

| 販売名 | HOT(9桁)番号 | 厚生労働省薬価基準 収載医薬品コード | レセプト電算 コード |
|---------------------|-----------|-----------------------|---------------|
| センノシド錠 12mg「ホリイ」 | 126038001 | 2354003F2421 | 622603801 |

17. 保険給付上の注意 _____

本剤は診療報酬上の後発医薬品である。

XI. 文 献

1. 引用文献

- 1) : 第17改正日本薬局方解説書, D-544, 2016
- 2) Sasaki, K. et al. : *Planta Medica*, 37, 370, 1979
- 3) Lemli, J. et al. : *Pharmacology*, 20 (Suppl.) , 50, 1980
- 4) Piegsa-Quischotte, L : *Arztl. Wschr.* 9, 499, 1954

2. その他の参考文献

該当資料なし

XII. 参考資料

1. 主な外国での発売状況

2. 海外における臨床支援情報

該当資料なし

XIII. 備 考

その他の関連資料
